

パララックス  
【瞳の狭間に溶ける 君との双眸視差】  
企画書



①概要・コンセプト  
※何を描きたいか

## 「百合作品」への挑戦

完結まで描く作品数を増やすことと、  
普段書かない題材を描くことが目的  
その第五弾

## ②作品イメージ

※どのような作品にしたいか

- ▶ ジャンル: 百合 / 現代ファンタジー
- ▶ メドゥーサの悲劇をモチーフにした主人公のバックボーン
- ▶ 異性が瞳を見ると魅了されてしまう謎の体質
- ▶ 学校の秘密部屋を発見し、出会うふたり
- ▶ 目を合わせるために毎日のように会う
- ▶ 俯きがちな少女が前を向くための話

### ③世界観イメージ ※どのような世界か

- ▶ 現代
- ▶ 「異性が瞳を見ると魅了されてしまう」体質持ち
- ▶ それ以外は普通の現代と同じ

## ④あらすじ（本筋部分のみ）

- ▶ 【異性の瞳を見ると魅了してしまう体質】を持つ主人公・蛇ノ目灯里。その体質の影響から過去にトラブルが幾度も起きてしまい、俯きがちに生きてきた。
- ▶ そんな人生を歩んできた灯里に友達と言える人が出来るわけもなく、ひとりであることを好み、人の傍から離れるように過ごすことが多かった。そんな中、学校を探索しひとりになれる場所を探していたところ、隠されるような形で入口があることを発見する。そこには秘密の教室が隠れており、先客・妻鳥藍良がいた。
- ▶ その出会いをきっかけに灯里は体質を打ち明けることになり、ふたりは目を合わせる特訓をするという名目で毎日のようにそこで顔を合わせることになる。
- ▶ 目を合わせる以外は会話したりご飯共にしたり遊んだりを繰り返す。そうしていくうちにふたりには信頼関係が築かれていく。
- ▶ 藍良は彼氏である椎名翠希も連れてきて、協力を仰ぐ。藍良は「普通の人是一目ぼれしたところでその場で襲い掛かってくる男なんてほとんどいない。襲う男が悪い」と魅了された程度で人の心は操れないと指摘する。
- ▶ その指摘から思い悩む灯里。その様子を見た藍良は自分が灯里に救われた過去を話す。ナンパされた藍良から矛先を自分に向けさせた灯里の勇姿は藍良が好感持つのに不思議はない行動だった。額と額がぶつかる距離で見つめあう。不思議な時間が流れた。
- ▶ 見つめ終えてその時間が終わっていつもの日常が戻った時に「目を見て話せるようになったね」と指摘され、藍良と目を見て話せるようになっていたことに気づかされる。
- ▶ 他の人の前ではサングラスを外せないものの、前を向いて歩けるようになったことで人の表情が見え、周りの人たちが気遣ってくれていることによりやく気付けた。少しだけ優しさに気づけて終わり。

## ⑤主要キャラの概要 ※ざっくり

### ▶ 蛇ノ目 灯里(じゃのめ ともり) 主人公

【異性と目を合わせると魅了してしまう体質】の持ち主。その体質の影響で俯きがちで人とのコミュニケーションを苦手としている。またその対策にサングラスを着用し、トラブル回避に努めている。

彼女はその【体質】の影響で、母の交際相手と目を合わせてしまい、母との関係に亀裂。別居することとなっている。

### ▶ 妻鳥 藍良 (めとり あいら) ヒロイン

【知られざる教室】に居座る女子生徒。明るく前向きな性格で普段は友達も多い人物なのだが、【教室】では独りで過ごしている。可愛らしく幼いとすら見える言動とは裏腹にミスティアスな魅力を持つ。彼女の提案で主人公は『目を合わせる特訓』をするようになる。

### ▶ 椎名 翠希 (しいな みずき) ヒロインの彼氏

ヒロインの彼氏。ヒロインに振り回されながらも受容出来る懐の深さとどこか生真面目さを持つ。また、主人公の瞳を見て浮気の意図なく「一目惚れした」と言っている天然さもある好青年。

## ⑥主要設定の詳細

### ▶ 瞳の力

主人公の持つ体質。【異性と目を合わせると魅了してしまう体質】その詳細は完全に解明されたわけではない。

状況証拠から主人公とその周囲の人が認識しているだけの体質である。

彼女の瞳は母の交際相手や同級生の男子を魅了してしまった。その上、母親や同級生の女子の嫉妬を買うことになったのも特徴。

元ネタはメドゥーサの【石化】と悲劇。

### ▶ 秘密の教室

学校に存在している【知られざる秘密の教室】。生徒のほとんどが知らない教室でその入り口も廊下側にあるわけではなく校舎の裏側から見えにくいところに存在している。その教室には単純に校長の秘密の休憩室でしかなく、半分物置の状態の空間となっている。

## ⑥主要設定の詳細

### ▶メドゥーサの悲劇 (元ネタの概要)

ギリシャ神話に登場するゴルゴン三姉妹の一人、メドゥーサは、元々は黒髪が美しい乙女で、アテナ女神に仕える純潔な巫女でした。

しかし、その美しさに目を付けた海神ポセイドンにより、神聖なアテナの神殿内で強引に犯されるという悲劇に見舞われます。この冒涇に激怒したアテナは、あろうことか加害者であるポセイドンではなく、無実のメドゥーサを罰しました。

彼女の自慢の髪は毒蛇の群れに変えられ、その視線は見た生き物を即座に石に変えてしまう恐ろしい呪いへと変貌させられたのです。

醜い怪物と化してしまった彼女は、人里離れた島の洞窟に追いやられ、孤独な生活を強いられます。しかし、運命はさらに残酷でした。

英雄ペルセウスが彼女の首を狙って現れたのです。アテナたちの加護を受けたペルセウスは、磨いた盾を鏡代わりに使い、眠っている彼女と目を合わせることなくその首をはねました。

死の間際、彼女の体からは翼馬ペガサスと巨人クリュサオルが誕生し、切り落とされた首は最終的にアテナの盾を飾る道具となりました。

## ⑦彼氏の存在の是非について補足 読まなくても差し支えありません

- ▶ 百合作品であるのにも関わらず、藍良に彼氏がいること、そしてその彼氏が物語にも関わってくることの是非は分かれるところである。
- ▶ 百合作品に造詣は深くないため、百合作品をいくつか拝見し自分なりに考察した結果として、百合は「友情とも恋愛とも、あるいはその境界線をまたぐような曖昧で精神的に絡み合う関係性」に魅力があるとした。
- ▶ 昨今の百合ファンの反応で「百合は恋愛だけじゃない、すべての女性関係が百合」というものがある。その解釈は上記の考察の答えと部分的に合致するものである反面、その声が大きくなる一方で恋愛感情的なものを求めている印象も受ける。
- ▶ 好きのニュアンスが「愛している(LOVE的な意味で)」であることを喜んだり、「結婚」という表面的な言葉をそのまま受け取り恋人扱いしていたり。二次創作も恋愛的ニュアンスや性欲的ニュアンスの強いものが散見されることからそういう傾向があるとみている。
- ▶ 結局恋愛的な関係性が見たいんじゃないかという思い。
- ▶ そのような鬱憤に端を発したある種のアンチテーゼがこの彼氏の存在を設定した主な理由である。恋愛と友情の狭間に溶けるような関係性でありながら、恋愛感情が芽生えたわけではないという否定を入れるため、彼氏がいる存在にした。
- ▶ 灯里と藍良は恋愛関係にはならないし、この物語は恋愛の物語ではない。
- ▶ しかしながら、恋愛だけが百合ではないのなら、この物語の関係性も百合である。無用な争いを避けるために百合タグはつけないかもしれないけど。